

株式会社エディオン 2021年3月期
第1四半期 決算補足資料



2020年07月31日

新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けている皆様に
謹んでお見舞い申し上げます。

また、令和2年7月豪雨により被災された皆様に謹んでお見舞い申し
上げるとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

お客様、お取引先様、従業員とその家族の安全と感染拡大防止を最優先に

営業店舗の対応

- 従業員のマスク着用
- 出入口への消毒液設置、共用部の清掃強化
- 飛沫防止アクリル板、ビニールシート設置
- 配達時のマスク着用、設置後の清掃徹底
- セール、集客イベント等の自粛



その他の対応

- 全従業員へ一時金支給
- テレワークの推進(本社は70%を達成)
- テレビ会議の活用、不要不急の出張禁止
- 時差出勤の励行、体温測定の徹底



- 4月度は、緊急事態宣言により、臨時休業54店舗、ゴールデンウィークのDMセールも自粛し、直営店受注前年比は87.9%となった。
- 5月度は、緊急事態宣言の解除に伴い臨時休業店舗も減少。自粛生活の中で「巣ごもり需要」「テレワーク需要」等による生活に必要な家電製品の目的買いが増加し、直営店受注前年比は106.5%となった。
- 6月度は、引き続き「巣ごもり需要」「テレワーク需要」等があり、また、特別定額給付金の給付が進んだことや、厚生労働省の掲げる「新しい生活様式」で、熱中症対策としてエアコンが推奨されたこともあり、直営店受注前年比は110.2%となった。

百万円・%	2019年度 1Q			2020年度 1Q				
	売上比	実績	前年比	売上比	実績	前年比	前年増減	対計画差額
売上高	100.0	170,742	108.6	100.0	175,304	102.7	+4,562	+16,608
売上総利益	29.7	50,749	107.3	30.1	52,765	104.0	+2,015	+4,620
販売管理費	31.4	53,647	116.1	26.9	47,228	88.0	△6,419	△1,643
営業利益	—	△2,898	—	3.2	5,536	—	+8,434	+6,226
経常利益	—	△2,679	—	3.1	5,461	—	+8,140	+6,070
親会社株主に帰属する 当期純利益	—	△2,109	—	1.7	3,049	—	+5,159	+3,718

●売上高

4月の臨時休業やセールの上粛があったものの、「テレワーク需要」「巣ごもり需要」などの新しい需要による押し上げによって、前年から45億円増加した。計画比では、コロナ禍のマイナス影響を大きく織り込んでいたため、166億円のプラスとなった。

●売上総利益

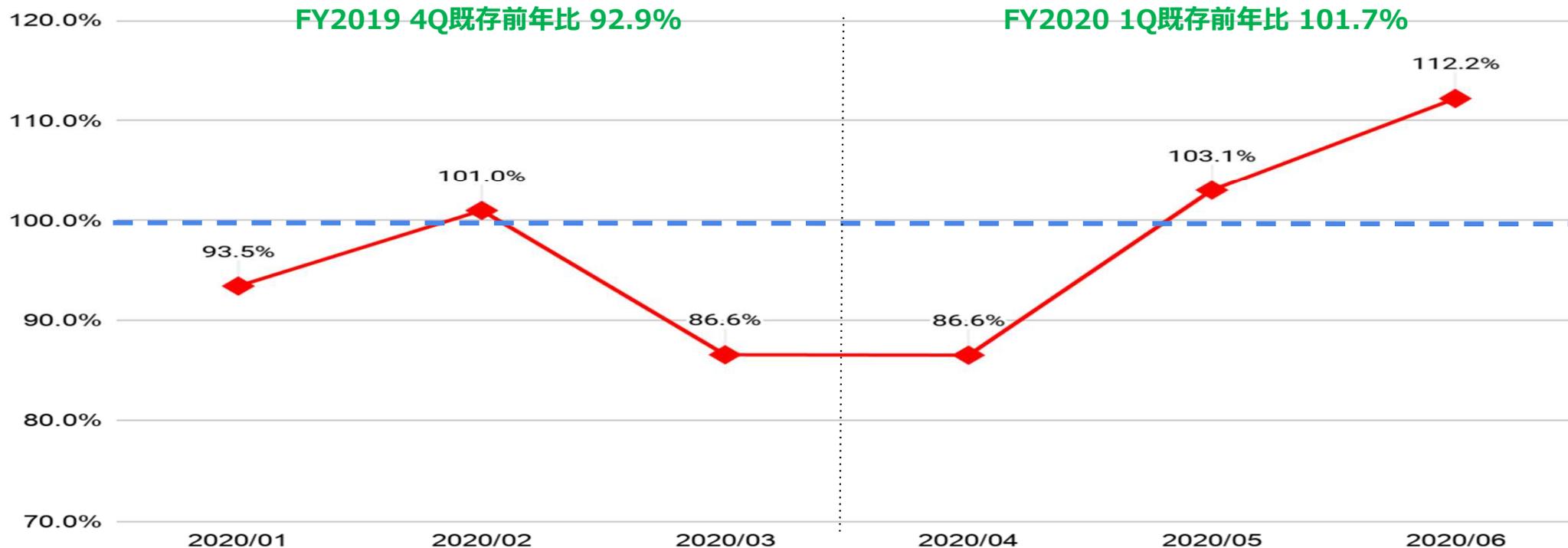
売上の増加に伴い前年から増加。売上総利益率は30.1%で前年を上回った。

●販売管理費

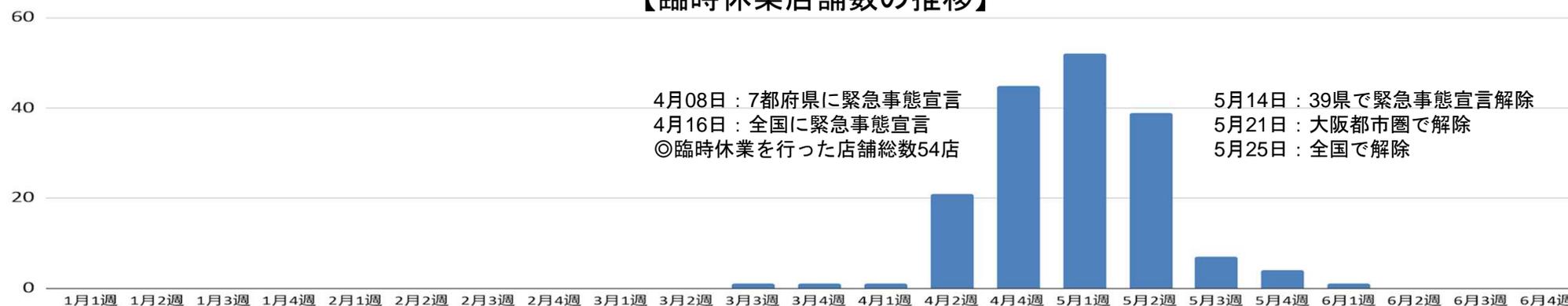
セールやチラシの上粛による広告宣伝費の減少があったことと、前年は大規模なポイント施策と大型出店があったことで前年から64億円のマイナス。計画比では、売上の増加に伴う変動費の増加があったが、臨時休業等による光熱費等の減少や賃借料の減免および既存店の改装上粛などによって16億円のマイナスとなった。

●臨時休業に伴う人件費4.8億円含む合計5.8億円を、感染症関連損失として特別損失に計上。

直営既存店 受注前年比 推移



【臨時休業店舗数の推移】



直営店 主要商品 受注前年比 推移

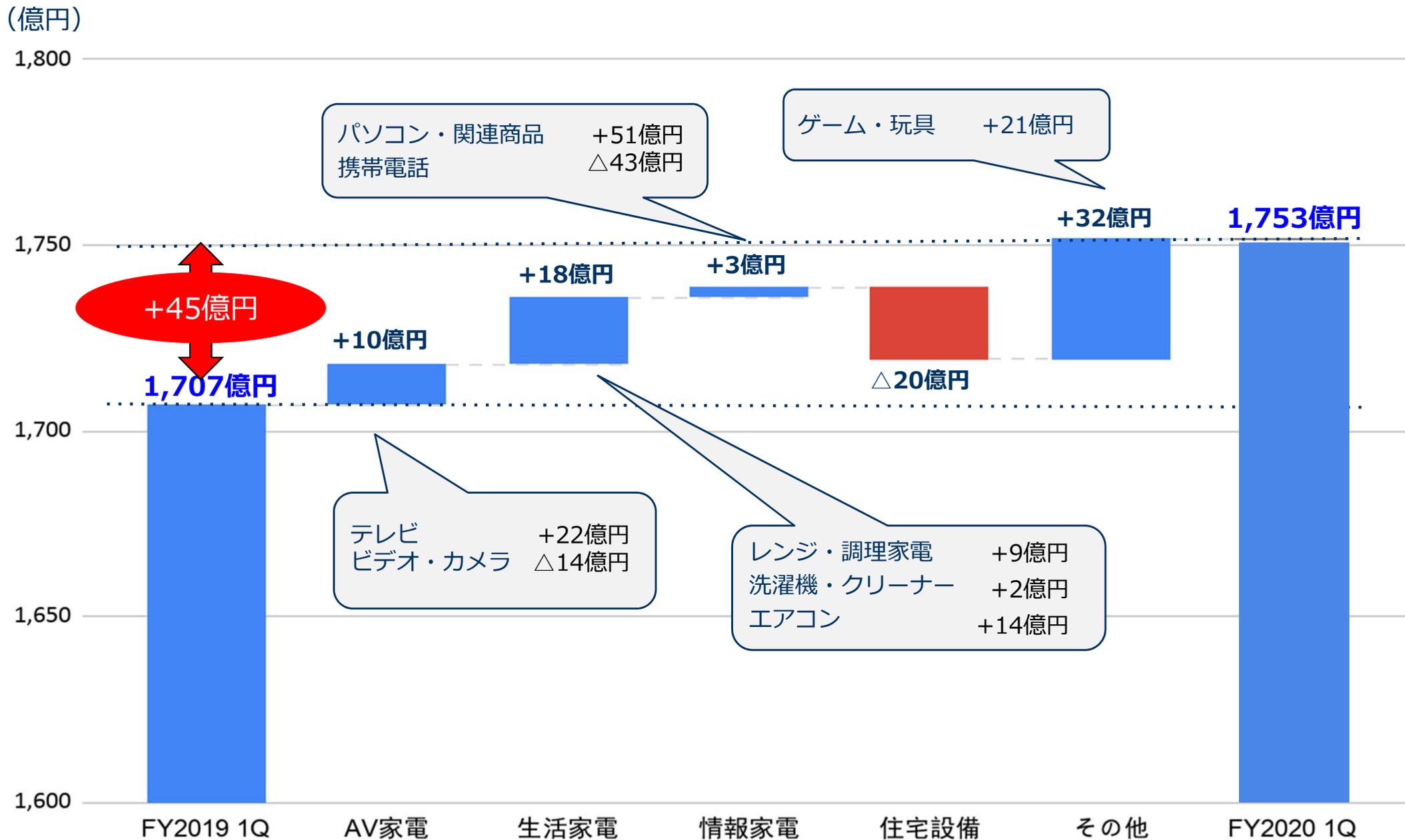
(%)

商品名	FY2019 1月	FY2019 2月	FY2019 3月	FY2019 4Q 累計	FY2020 4月	FY2020 5月	FY2020 6月	FY2020 1Q 累計
テレビ	99.5	116.6	99.4	104.5	105.8	133.2	125.4	121.5
エアコン	71.9	85.8	71.2	75.5	63.2	110.6	125.2	108.1
冷蔵庫	91.5	102.3	81.5	90.0	77.2	107.3	93.4	92.9
洗濯機	94.2	107.2	87.5	95.0	87.3	100.7	116.8	102.9
パソコン	164.0	116.0	85.9	118.2	143.8	158.4	105.8	134.2
リフォーム	112.0	110.6	84.2	102.1	65.0	61.8	79.4	69.4
オール電化	105.5	115.5	98.9	106.2	77.7	81.2	100.7	86.6

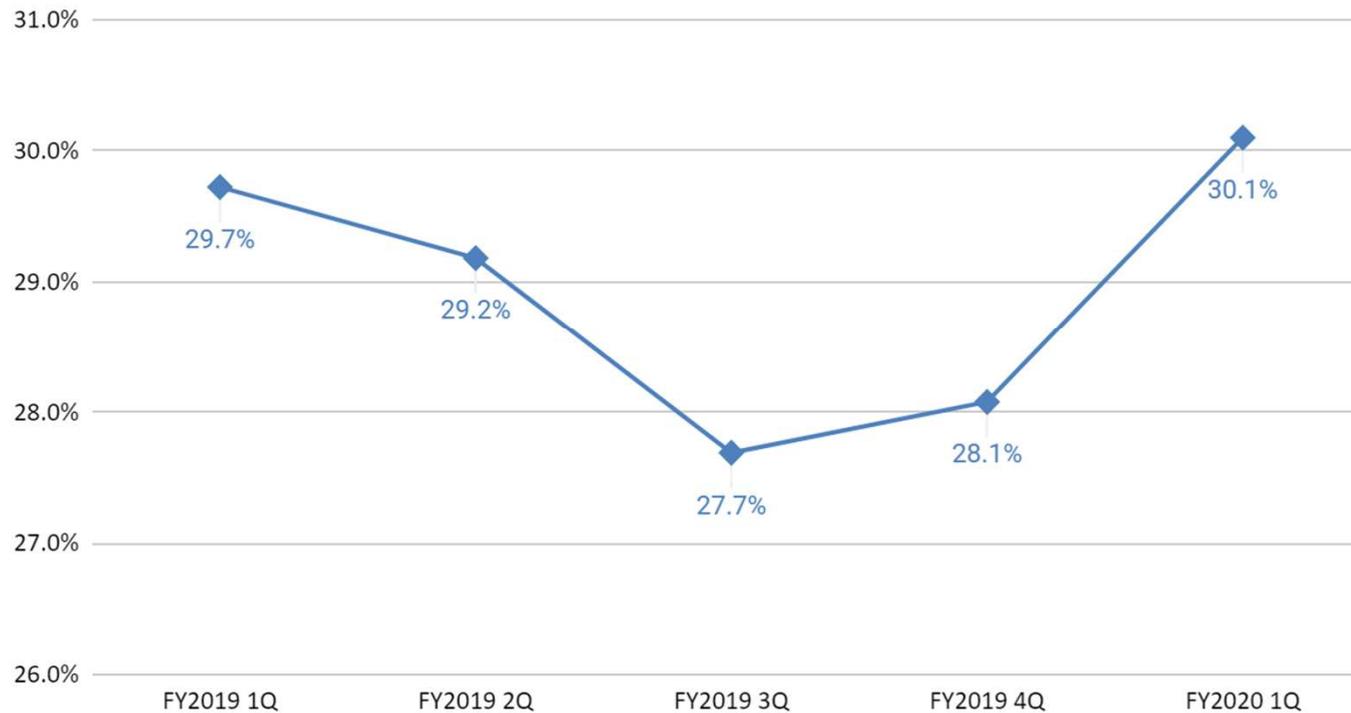
- テレビは、アナログ停波から10年と「巣ごもり需要」で大型パネルが伸長し好調に推移。
- エアコンは、在宅率の上昇により2台目3台目需要で伸長。パソコンも「テレワーク需要」で周辺機器を含め伸長。
- リフォーム、オール電化は、コロナ禍により見積時の顧客宅訪問自粛した影響でマイナスとなったが、オンライン受付の開始や、「巣ごもり需要」によるIHクッキングヒーターの需要増加により順調に回復傾向。

【その他トピックス】

- 「巣ごもり需要」を反映して、エディオンネットショップの販売が好調
 - ・ 受注前年比 第1四半期累計 152.0%
- ステイホームによる在宅率の上昇で、家庭での快適な環境を求める需要が増加（数値は計上ベース）
 - ・ ゲーム・玩具 前年比 150.5%
 - ・ 電子レンジ・調理家電 前年比 111.7%
 - ・ オーディオ 前年比 111.3%



四半期別粗利率推移



構成比	FY2019 1Q	FY2020 1Q
A V家電	11.6%	11.9%
生活家電（エアコン）	12.9%	13.4%
生活家電（その他）	32.4%	31.7%
情報家電（PC等）	14.3%	16.6%
情報家電（携帯）	8.7%	5.9%
住宅設備	6.5%	5.2%
その他	13.7%	15.3%
	100.0%	100.0%

- 当第1四半期は、季節、生活家電に重点を置く計画であり、「巣ごもり需要」もあって粗利率の高いエアコンの構成比が上昇した。
- 比較的粗利率の低いテレビ、パソコンの構成比も上昇したが、高単価の有機ELテレビや、ハイスペック型パソコンが好調に推移し、粗利率は上昇した。そのほか、コロナ禍で見積時の顧客宅訪問を自粛したことにより、住宅設備の構成比が低下したこともあって、粗利ミックスは改善し前年を上回った。
- 粗利率の水準は 前年同期や上期計画の水準を上回っている。

百万円	2019年度 1Q		2020年度 1Q				
	売上比	実績	売上比	実績	前年比	前年増減	対計画差額
販売管理費合計	31.4%	53,647	26.9%	47,228	88.0%	△6,419	△1,643
広告宣伝費・販売費	10.2%	17,372	7.2%	12,631	72.7%	△4,740	+210
(内ポイント販促費)	(3.3%)	(5,614)	(1.5%)	(2,622)	(46.7%)	(△2,991)	(+194)
人件費	11.6%	19,752	11.0%	19,213	97.3%	△538	△249
設備費・管理費	8.2%	14,011	7.3%	12,858	91.8%	△1,152	△1,515
減価償却費	1.5%	2,511	1.4%	2,524	100.5%	+13	△88

● 広告宣伝費・販売費

- ・前年比は、新型コロナウイルス感染拡大によってチラシや販促イベントの自粛したことと、前年に大型出店と大規模なポイント施策があったことで△47億円。計画比は、売上高が計画を超過したため、ポイント販促費、物流費等の変動費が増加したが2億円の超過に留めた。

● 設備費・管理費

- ・前年比は、前年に大型出店に伴う出店費用があったため△11億円。計画比は、新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業で光熱費等が減少したことや家賃減免により賃借料が減少。また、予定されていた既存店の改装なども延期されたことで改装費用も減少し△15億円。改装については、今後のコロナ禍の状況をみながら実施を検討する。

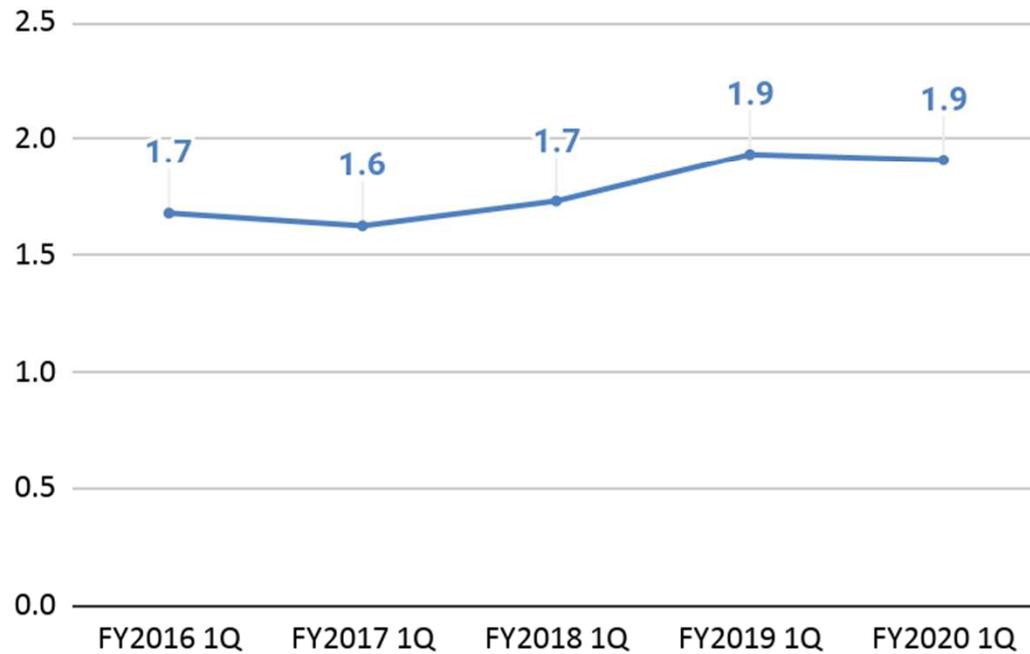
百万円	2019年6月末	2020年3月末	2020年6月末	前期末比	前年同期比
流動資産	178,245	153,296	189,210	35,914	10,965
現預金	9,639	15,974	26,902	+10,927	+17,262
売掛金	38,430	33,666	44,004	+10,337	+5,573
たな卸資産	118,825	91,286	104,931	+13,644	△13,894
固定資産	207,919	196,727	194,959	△1,768	△12,960
有形固定資産	143,064	130,891	129,852	△1,038	△13,212
無形固定資産	7,802	10,743	10,606	△137	+2,803
投資その他	57,052	55,093	54,500	△592	△2,551
総資産	386,164	350,024	384,170	+34,145	△1,994
たな卸資産回転数/年	6.3	7.8	7.1	△0.7	+0.8
総資産回転数/年	1.9	2.1	1.9	△0.2	△0.0

- たな卸資産：前期末は、コロナ禍による影響で調達が停滞した影響もあったが、1Q末では概ね影響は無くなり適正な在庫水準となった。前年同期は、大型出店に伴い大きく増加していた。
- 有形固定資産：前期に土地の売却等があったため、前年同期比では大きく減少した。

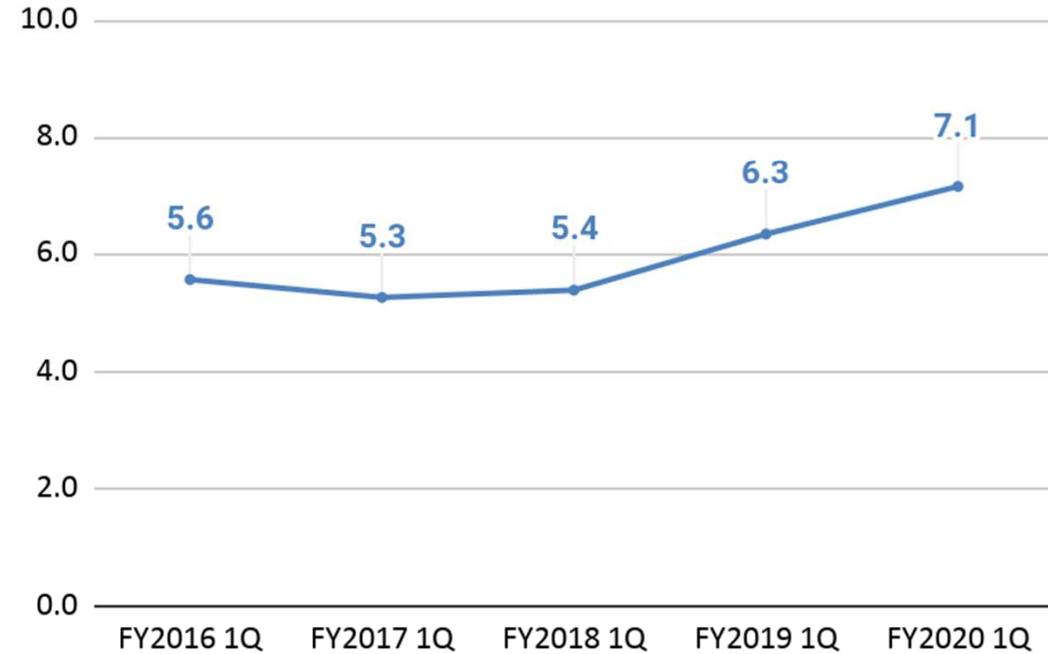
百万円	2019年6月末	2020年3月末	2020年6月末	前期末比	前年同期比
負債	212,200	169,623	202,343	32,720	△9,856
支払手形買掛金	55,154	34,434	64,383	+29,948	+9,228
短期借入金	10,060	70	80	+10	△9,980
長期借入・社債	59,254	56,924	55,354	△1,569	△3,899
リース債務	2,417	2,372	2,435	+62	+18
純資産	173,964	180,400	181,826	+1,425	+7,861
自己資本	173,964	180,400	181,826	+1,425	+7,861
有利子負債依存度	18.6%	17.0%	15.1%	△1.9%	△3.5%
自己資本比率	45.0%	51.5%	47.3%	△4.2%	+2.3%
フリーCF	△6,307	19,719	14,008	—	+20,316
営業活動CF	△2,751	25,278	15,728	—	+18,479
投資活動CF	△3,556	△5,559	△1,719	—	+1,837

- 有利子負債依存度：目標の30%を大きく下回り、継続達成。
- 自己資本比率：目標の40%以上を継続達成。
- フリーCF：営業活動CFが前年同期から大きく改善し、フリーCFも改善。

総資産回転数



たな卸資産回転数

**●総資産回転数**

・FY2018 1Q以降順調に上昇。

●たな卸資産回転数

・たな卸資産が減少、売上高が伸長したため、前年から大きく改善した。

店舗数増減実績（2020年4月～2020年6月）

	2020年3月	新設	移転・建替	閉鎖	増減	2020年6月
家電店	396	3	1	0	+3	399
非家電店	37	0	0	0	+0	37
直営店計	433	3	1	0	+3	436
FC店	751	4	0	△5	△1	750
全店合計	1,184	7	1	△5	+2	1,186
売場面積（FC除く）（㎡）	1,055,359	4,293		0	+4,293	1,059,652

非家電店・・・携帯電話専門店、ソフト専門店等

- 新設：JR芦屋駅店、豊田四郷店、ファニチャードーム岡崎大樹寺店
- 移転：シーモール下関店（旧下関店）
- 計画通りに推移

百万円・%	2019年度			2020年度		
	売上比	実績	前年比	売上比	計画	前年比
売上高	100.0%	733,575	102.1%	100.0%	743,000	101.3%
売上総利益	28.7%	210,605	100.4%	28.7%	213,600	101.4%
販売管理費	27.0%	198,321	103.3%	27.0%	200,600	101.1%
営業利益	1.7%	12,284	68.8%	1.7%	13,000	105.8%
経常利益	1.8%	13,365	70.8%	1.9%	14,000	104.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1.5%	10,977	94.3%	1.0%	7,500	68.3%
新規出店数 (直営家電店)	-	6店	-	-	8店	-
移転・建替店数 (直営家電店)	-	3店	-	-	1店	-
設備投資額	-	12,712	92.5%	-	13,626	107.2%
減価償却費	-	11,131	113.2%	-	10,770	96.7%

●既存店前年比計画：99.8%

●現時点では、第2四半期以降の見通しが不透明であるため、業績予想の修正はせず。